



きらきら Eye ランド

J A 庄内みどり

安全・安心をお届けします。

令和 7 年 3 月 10 日

グリーンプロジェクト情報 第 2 号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

育苗日数と移植葉齢は適正に！ 作業の計画とポイントを再度確認して健苗育成！

令和 7 年産米の春作業が始まります。気象変動に負けない稲づくりの第一歩は健苗育成です。田植えから逆算し作業計画を立てましょう。また、手順や使用する機器・容器を事前にしっかり確認し、各作業工程の温度管理等、重要なポイントを押さえて健苗づくりに努めましょう。

技、其の一 田植え時期から逆算し作業計画を立てましょう！

◎春作業の目安 ※下表を参考に、移植適期葉齢（2.2～2.3 葉）を目安に行いましょう。

月日	3月 28～	3月 31～	4月 13～	4月 16～20	【0.8 葉を目安に早めに除去】 5月 23～27	5月 8～15
作業	種子消毒	浸種	催芽	播種	マルチ除去 温度管理・水管理	緑化期 硬化期 田植え

技、其の二 種子消毒は確実にいきましょう！

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度	処理法
低濃度長時間 処理法	(推奨) テクリト [®] C70アブル ※苗立枯細菌病にも有効	200 倍 (50mL/10L)	24 時間種子浸漬、引き続き水道 水で浸種。

注意事項

- ①種子消毒時の水温は、10℃以上 15℃未満であることを確認する。
 - ②浸漬処理の場合、希釈した薬液は乾燥籾重の 2 倍以上の容量を準備する。
(乾籾 10kg の場合、20L 以上の薬液が必要。)
 - ③浸漬する場合は、催芽袋をよく揺すり中までしっかり薬液に浸かるようにする。
 - ④使用後の廃液は、周辺環境に影響を及ぼさないよう適切に処理する。
- ※ばか苗対策の詳細については、GP 情報第 1 号（2 月 10 日発行）をご参照ください。

技、其の三 浸種初日の水温と積算温度が重要！！

品種名	積算温度（目安）	浸種日数（目安）
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 雪若丸・ふくひびき	120℃	水温 10℃で 12 日間

高温登熟した種子は休眠が深いため浸種初日の低水温は発芽率が低下します。
お湯を加えるなどし、必ず水温 10℃以上を確保しましょう。

- ①浸種は水温 10℃以上 15℃未満を確保できるように 3/31 頃から開始しましょう。
- ②容器内には、必ず温度計を設置する。適水温で浸種し、確実に積算温度を確保する。
※高温（15℃以上）は「ばか苗病」の発生リスクを高めます。
- ③浸種時の水量は、種子量に対し薬剤消毒、温湯消毒共に 4 倍以上とする。
(種籾 10kg あたり水道水 40L 以上)
- ④薬剤消毒種子の場合、薬剤効果安定の為、**浸け始めから 3 日間は水を替えない。**
その後は、2～3 日おきに水の交換を行う。
- ⑤温湯消毒種子と薬剤消毒種子がある場合は、必ず別の容器で区別する。
- ⑥水交換の時には、**種籾の位置・上下交換も行う。(発芽不揃い防止)**

※浸種時に活水（酸素供給剤）の使用を推奨します。浸種時に活水（100 倍液）を使用すると発芽揃いが良くなります。使用時期は浸種始めから 4 日目以降が目安です。
(発芽阻害物質溶出後に使用すると効果が高いため)
また、催芽時にも活水（100 倍液）を使用すると効果的です。

技、其の四 催芽状態の確認は袋の中まで！

☆上手な催芽は健苗づくりの基本☆

- ①催芽温度は 30～32℃とし、催芽の程度はハト胸状態とする。
- ②品種や浸種状況によって、催芽完了までに要する時間が異なるので随時、袋の中まで出芽状態を確認し、“90%以上の芽切れで仕上げる”ようにする。
- ③ハトムネ催芽機を使用の場合も、機械を過信せず温度計を設置し適宜温度を確認する。



技、其の五 育苗培土・育苗マットの使用は適切に！

① 育苗培土を使用する場合

透水性・通気性が高すぎる場合は、下表の資材を混合するなどして保水性・保肥力を改善する。また、くん炭を使用する場合、生焼けくん炭を使用するとばか苗病が発生しやすくなるので、完全に炭化したものを使用する。**混合後は必ず pH を測定してから使用する。** pH の測定は最寄りの営農課にご依頼下さい。

【推奨資材】

資材名	容量	pH(目安)	参考価格(税込)	1L 当たり価格
輸入ピートモス	107L	4.5	4,840 円	45.2 円
V 床土 (水稲用)	45L	5.0	2,882 円	64.0 円

(裏面に続く)

②育苗マットを使用する場合

1. マットには裏表があるので、育苗箱に入れる時は必ず確認する。
2. 播種時（前）はマットにたっぷり灌水する。（箱当たり約2Lが目安）
※「水不足」や「水分蒸発」による高温障害に注意して下さい。
3. 覆土（覆土用・肥料入等）は、粗い粒状のもので、1.2～1.4kg程度（覆土をかけすぎない）を目安に使用し、出芽不良を防止する。
4. 過湿・低温にならないように育苗期間中の灌水は控えめにする。
（育苗箱を傾けて水が浸み出るときには、灌水しない）
5. カビ対策として、播種後14日以内にダコレート水和剤 500 倍液を箱当たり 500mL 灌注する。（特別栽培米には使用出来ません）

③水田の土を使用する場合

表土を削り、作土層を床土として使用する。（深すぎて、耕盤まで掘り取らないように要注意）過度に乾燥させてしまうと、砕土で土が粉状になり、酸素欠乏など障害を引き起こすことがあるので、乾燥程度には十分留意する。また、使用前にpH（4.8～5.2）を必ず確認する。

技、其の六 肥料・農薬混和は播種7日前を目安に！

① 育苗基肥（1箱床土量 約3.3kg）

施肥例①	サイコー11号 : 現物 12g/箱	追肥は2回程度必要
施肥例②	サイコー11号 : 現物 8g/箱 エコロング 413M100 : 現物 50g/箱	追肥は不要
施肥例③	稚苗用ロング313 : 現物 60g/箱 (育苗一発稚苗用6kg)	追肥は不要
施肥例④	こめパワーマットまたはエースマット (育苗専用マット)※肥料塗布済み	追肥は2回程度必要

② 床土消毒（苗立枯病の予防・ムレ苗予防）

床土に水田の土を使用する場合は、上記の肥料を混合し以下の薬剤を同時混和する。
タチガレン粉剤（4～8g/箱）またはタチガレエースM粉剤（6～8g/箱）

◆注意事項◆ 特別栽培米は、決められた薬剤しか使用できないため、必ず確認してから使用して下さい。※不明な場合は営農指導員へご相談ください。

技、其の七 適正な播種量で健康な苗作り！

☆播種量の基準

	移植葉齢	育苗日数	乾籾重	催芽籾重	催芽籾量
稚苗	2.2～2.3	22～25	150～170g	180～200g	1.6～1.8合

「雪若丸」は千粒重が大きいので、他品種より播種量を1割程度多くしましょう。
事前に播種量を確認してから播種作業を行ってください。

技、其の八 播種作業に向けた準備

- ① ハウス内・トンネルの置床は、できるだけ均平に整地する。排水が悪い場合は周辺に排水溝を掘る。
（均平化・排水の補助として箱の下に薄い板、塩ビパイプ等を敷くことも有効です。）
- ② 昨年「ばか苗病」が発生した場合は、マルチや有孔ポリは再利用せず新調する。
- ③ 育苗施設周辺では「生わら」「籾殻」は使用しない。
- ④ 近年の育苗期間の高温対策として、シルバー被覆（ふあふあ SL-60 など）の遮光率が低い被覆資材を使用する場合、ベタ張りマルチを有孔ポリに変更することにより、高温障害のリスクを軽減できます。（注：無孔ポリを使用した場合より、乾きやすくなります。）

特別栽培米に取り組む皆様へ

早い地区で温湯消毒作業が始まりました。その後の作業・管理について下記の注意事項を厳守して下さい。（ばか苗病等の発生予防対策としても重要な事項です）

- ① 温湯消毒をした種子と、テクリードCフロアブル等による薬剤消毒をした種子とは、完全に区別し、別々の容器で浸種して下さい。（催芽も同様に対応して下さい）
- ② 温湯消毒後の種子は引き取り後、直ちに浸種して下さい。すぐに浸種できない場合は再感染防止のため、冷却後脱水し通風乾燥で籾水分15%まで低下させましょう。その後、風通しのよい冷暗所で保管して下さい。
- ③ 育苗箱に明確な目印などをつけて、区別して播種作業を行って下さい。
- ④ 育苗期の殺虫・殺菌剤等については、地域の栽培基準で定められておりますので、指定された農薬以外は使用しないよう注意して下さい。

酒田農業技術普及課 公式 LINE NEW

酒田飽海米づくり情報

リアルタイムに発信します！

- ・『米づくり情報』等の栽培技術情報
- ・生育ステージ毎の栽培管理
- ・刈取時期の登熟状況（刈取目安） など



QRコード読込



追加をクリック

友達登録
お願いします！

安定生産に向けた強い味方！
「スマートつや姫」

機能充実！

- 適期作業カレンダー
- 穂肥診断マップ
- 刈取適期マップ
- 食味収量点検マップ



アクセスはこちら

NEW 活用事例集

トップページ→マニュアル
からダウンロードできます

問合せ
最寄りのJA又は
酒田農業技術普及課まで

異品種の混入・混植(コンタミ)を防ぐために、浸種袋・育苗箱・置き床には、**誰が見てもわかるよう品種ごとに目印をつけましょう！**

★ 次号の発行は4月10日です！